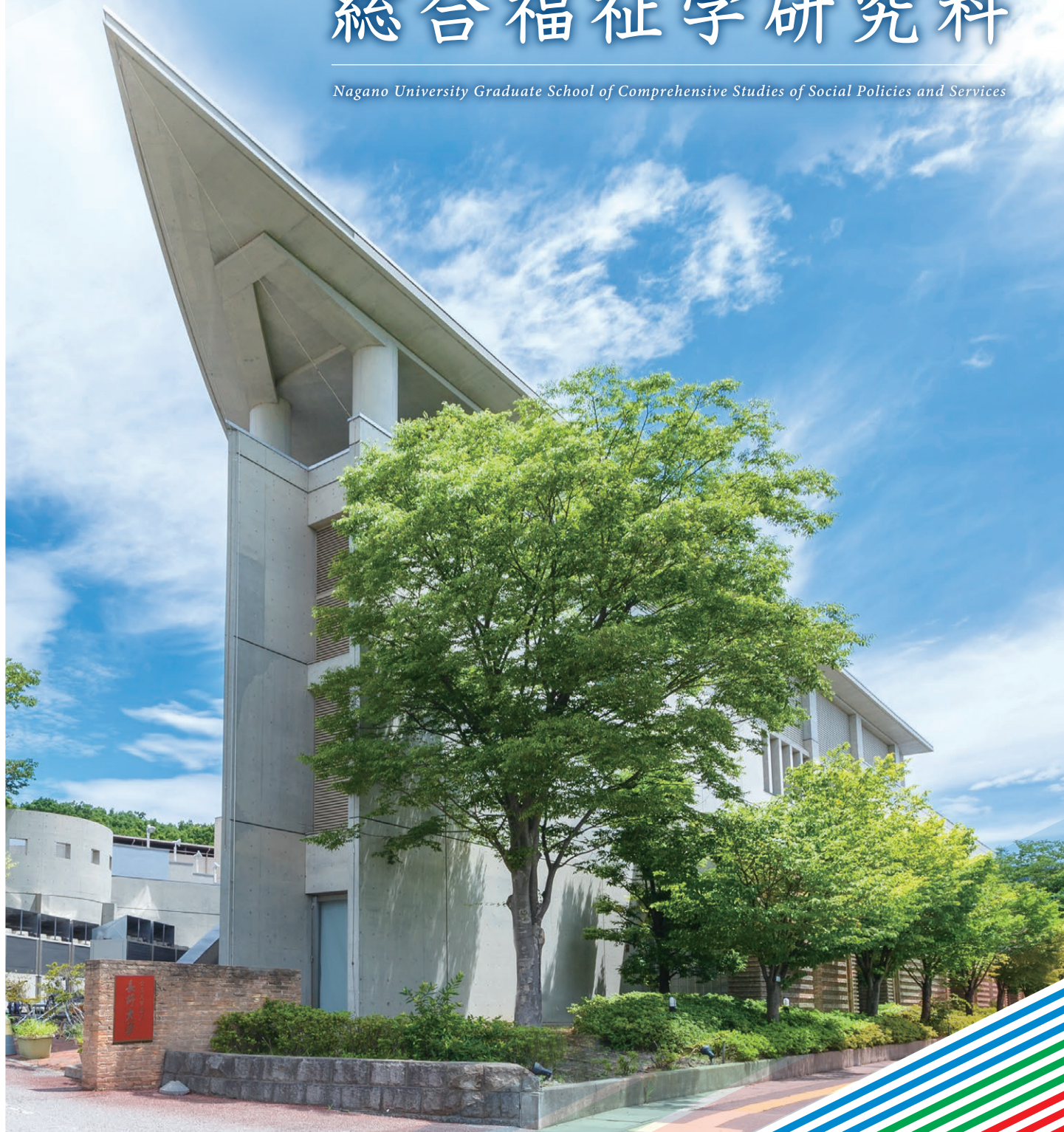




2024 長野大学大学院 総合福祉学研究科

Nagano University Graduate School of Comprehensive Studies of Social Policies and Services



公立大学法人

長野大学
NAGANO UNIVERSITY

ごあいさつ

今年度で長野大学は、総合福祉学研究科を設置して3期生を迎えたところです。大学院は学部教育とは異なり、より高度な研究を行うところです。学生は修士号・博士号を取得し、より高度な立場で社会福祉のさまざまな分野で活躍する事が期待されています。従って社会福祉学研究とは何か、本学では従来の社会福祉学の教育研究の枠組みをさらに広げ、「多分野横断的アプローチ」「学際的総合科学的アプローチ」を基盤とした研究を行っています。そうすることによって社会福祉学の基盤がより広がり、新たな発展が期待できると考えています。大学院の研究を鮮明にすることで、学部教育内容も変えていく予定です。学生に新たな社会福祉学の方向性を示すことにより、社会福祉分野の発展性を感じ取ることもできます。

日本の高齢化社会を考えたとき、社会福祉分野はますます重要になります。本学の総合福祉学研究科は、社会福祉の本質に迫り新たな方向性の提案ができたらと考えています。

学 長 小林 淳一



私たち総合福祉学研究科の教職員一同は、皆様が快適な学習環境の中で、高度な専門的能力と知識を身につけ、社会に貢献できるよう全力でサポートしてまいります。

総合福祉学は、人々の生活を支援するための広範な知識と技術を総合的に学ぶ学問分野です。少子化社会を迎えているわが国の社会構造は、将来的に多くの課題を抱えており、社会福祉の領域においてはその多様な課題の解決が必要とされております。そこで重要なことは、社会の要請に応えるために「高度創造デザイン社会」の構築です。このことから総合福祉学研究科は、社会福祉学専攻、発達支援学専攻の2専攻を軸として、社会的弱者を支援するための専門的

知識を身につけ、よりよい社会の実現に向けた活躍が期待されます。

研究においては、現場ニーズに即した理論的研究と実践的研究を推進することで、社会的に意義のある研究成果を生み出すことをめざします。

本研究科で学ぶ皆様には、自己の専門性を高めると同時に、多様な人々とのかかわりを通じて、人間的成長を成し遂げることができる貴重な機会を提供することをお約束します。皆様が充実した学生生活を送り、将来に向けて輝けるキャリアを築けるようしてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

総合福祉学研究科長 中村 英三

公立大学法人 長野大学のビジョン

長野大学は「地域社会との密接な結びつきによる学問理論の生活化」を建学の理念とする公設民営大学として開学し、以来50年の歴史を経て2017（平成29）年4月に、上田市を設置者とする公立大学法人として新たなスタートを切りました。その際、地域の未来を構想し、「高度創造デザイン社会」の創出を目標として、5つの「長野大学ビジョン」を策定しました。「高度創造デザイン社会」のコンセプトは、「豊かな自然環境と多様な人々を地域の貴重な財産として生かし、活力ある持続可能な地域を創造的に設計して、世界に向けて発展させていく社会」です。

- VISION 1「教 育」 未来を創造・デザインする地域人材の育成
- VISION 2「研 究」 長期的展望に立ち地域から世界につながる多様な独創的研究を推進
- VISION 3「地域貢献」 学生の若い力が躍動し、市民の力と融合する活気ある地域づくりと、バリアフリーの共生社会を実現
- VISION 4「国際交流」 世界の多様な文化・思想を理解・尊重し合い、地域と世界をつなぐ教育・研究の展開と地域産業のグローバル化に応える国際交流の推進
- VISION 5「大学運営」 教職員・学生・上田地域の人々と行政が丸となった自立・進取の活力あふれる持続可能な大学づくり

長野大学は、このビジョンのもとに、「地域を主題とする研究の深化と、研究成果の教育・地域活動への活用」をめざし、地域における「知の拠点」として努力を重ねてきました。そして、更なる飛躍を期し、2021年4月に大学院・総合福祉学研究科を開設しました。

大学院設置の目的

現代社会では少子高齢化、人口減少化、地球温暖化、グローバル化、高度情報化、人口の大都市集中・地方の衰退化が極度に進展し、さまざまな問題状況が出現しています。それに対し、社会的インフラの整備、産業・雇用・地域社会構造の変革、循環型社会の形成など、地域社会の課題解決に向けた早急な対策が求められています。このような時代にあって、長野大学大学院総合福祉学研究科は、福祉課題解決のための理論知と実践知、技術、教育を一層発展させることによって、「高度創造デザイン社会」の創出を力強く進めていきます。そして、人々の安全・安心、福祉の実現に貢献する高度専門職業人と研究者を育成します。

教育・研究方法の特色

社会福祉の今後を「高度創造デザイン社会」の創出という文脈の中に位置づけ、それを可能にする施策、活動、技術を研究開発し、また、その担い手となる人材を育成するために、次の方法を採用します。

①多分野横断的アプローチ

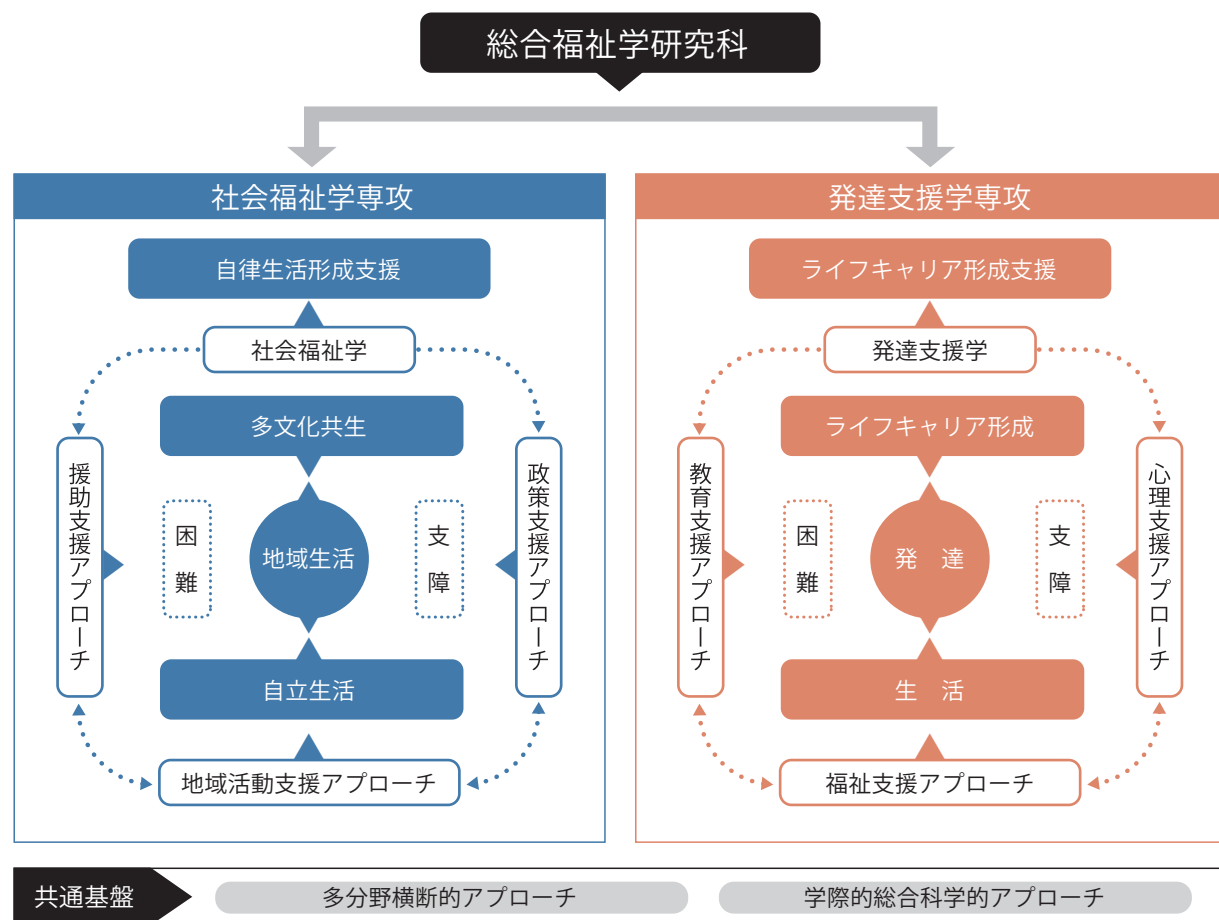
社会福祉を隣接領域の諸施策（政策・制度・支援活動）と関連付けながら、現代の社会的・実務的・実践的な要請に応えうる横断的な連携、協働、総合化のありようについて探究します。

②学際的総合科学的アプローチ

社会福祉に関連する諸科学の研究手法や知見、技術に関する成果を内面化、系統化し、それを統合化することによって成り立つ総合科学をめざし、学際的な思考ができる人材を育成します。

長野大学大学院 総合福祉学研究科 概念図

総合福祉学研究科は、研究・教育の目的を実現するために、2つの専攻で編成しています。研究科の構想を示すと、下図のようになります。



社会福祉学専攻では、現代社会のさまざまな問題のうち、特に「自立生活の困難・支障」「地域生活の困難・支障」「多文化共生の困難・支障」を対象として絞り込み、「政策支援」「援助支援」「地域活動支援」という3つのアプローチを統合して、地域に生きる人々の「自律生活形成支援」のための研究と教育を推進します。

発達支援学専攻では、児童福祉を起点とし、子どもたちの「生活の困難・支障」「発達の困難・支障」「ライフキャリア形成の困難・支障」を対象とし、「心理支援」「教育支援」「福祉支援」という3つのアプローチを統合して、生きづらさを抱える子どもたちの「ライフキャリア形成支援」のための研究と教育を推進します。

研究科全体を通底する方法として、「多分野横断的アプローチ」「学際的総合科学的アプローチ」を採ります。この方法によって、地域社会の福祉課題を多角的・包括的・大局的な視点から捉え、問題解決と福祉の実現に資する実効性のある研究を行うことが可能となります。

学位取得までのスケジュール

			社会福祉学専攻 博士前期課程	社会福祉学専攻 博士後期課程	発達支援学専攻 修士課程
1 年次	4 月	履修登録	●	●	●
	4 月	指導教員決定、論文指導開始	●	●	●
	4 月	授業開始	●	●	●
	7 月	第 1 回中間発表会	●	●	●
	1 月	第 2 回中間発表会	●	●	●
2 年次	4 月	履修登録	●	●	●
	4 月	授業開始	●	●	●
	5 月	第 3 回中間発表会		●	●
	7 月	第 3 回中間発表会	●		
	7 月	第 4 回中間発表会			●
	10 月	第 4 回中間発表会	●		
	10 月	第 5 回中間発表会			●
	10 月	博士論文予備審査(第4回中間発表会を兼ねる)		●	
	1 月	修士論文および学位審査申請書提出	●		●
	2 月	修士論文審査、最終試験	●		●
3 年次	2 月	修了判定	●		●
	3 月	学位授与	●		●
	4 月	履修登録		●	
	4 月	授業開始		●	
	5 月	第 5 回中間発表会		●	
	7 月	第 6 回中間発表会		●	
	10 月	博士論文および学位審査申請書提出		●	
	2 月	博士論文審査、最終試験		●	
	2 月	修了判定		●	
	3 月	学位授与		●	



中間発表会



学位記授与式

修了生からのメッセージ

◆◆◆ 大学院で学んだこと

発達支援学専攻 修士課程 修了生 鷲塚 祐奈 さん

発達支援学専攻では、特別支援教育の実践に役立つ知識を体系的に学びました。研究にあたっては、専門知識に加え、物事を俯瞰的・批判的に検討する視座の取り方や論文の読み方を学びました。こうして身についたものは研究のみならず、日々をより深く・知的に過ごすことにつながっています。

◆◆◆ 大学院を検討している方へのメッセージ

大学院での学びと仕事の両立は多忙な毎日です。しかし、大学院での学びは、長野県の福祉の向上に関わるとき課題の発見とアプローチに役立っていると実感しています。

明確な目的があり、専門知識がその目的を達成するために必要だと考えるなら、ぜひアカデミアの門をくぐってみてください。きっとより良い未来につながる選択になると思います。



大学院の特色

初年度納付金

◆◆◆ 入学金

上田地域定住自立圏域内者※	282,000円	上田地域定住自立圏域外者	423,000円
---------------	----------	--------------	----------

※上田市が指定する「上田地域定住自立圏域内者」とは、次のいずれかに該当する者をいいます。

- 2023年4月1日以前から上田地域定住自立圏域市町村(上田市、東御市、青木村、長和町、坂城町、立科町、嬭恋村)に住所を有する者。
- 2023年4月1日以前から1親等の親族または配偶者が上田地域定住自立圏域市町村に住所を有する者。
- 本学大学院社会福祉学専攻博士前期課程又は発達支援学専攻修士課程の修了者が引き続き社会福祉学専攻博士後期課程に進学する場合の入学金は全額免除とします。

◆◆◆ 学費

前学期の納入金は、入学後4月30日までに、後学期の納入金は、10月31日までに納入してください。なお、1年分の学費を一括で納入することはできません。

その他の必要となる費用については、「入学手続のご案内」等でお知らせします。

区 分	前学期	後学期	合 計
授業料	290,000円	290,000円	580,000円
教育充実費	30,000円	30,000円	60,000円
合 計	320,000円	320,000円	640,000円

長野大学地域共生福祉研究所

2005年4月に設置した研究所です。大学院開設により大学院研究との連携と支援を強化し、院生も研究員として、次の時代の福祉の方向性をデザインする研究に取り組んでいます。

学習環境

7号館を大学院棟とし、教室・演習室を設置しました。また、専攻ごとに大学院生室があり、個人机でパソコンを使用するなど、集中して自習できる環境を整備しました。

7号館 大学院棟



教室・演習室



7号館の教室と演習室

院生室



個人机でパソコンが利用でき、Wi-Fi環境も完備



密にならない広々とした院生室

働きながら学ぶ学生等を支援

◆◆◆ 長期履修学生制度

職業を有する等の事情により、標準修業年限(修士課程・博士前期課程2年、博士後期課程3年)を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する学生を対象とします。本人からの申請に基づいて、許可された学生は、原則として標準修業年限の授業料と教育充実費で長期履修期間の修学が可能になります。2023年度は、在学生のうち、69%が本制度を利用しています。

授業料等※¹の納入額の例(入学時に申請した場合※²)

修士課程・博士前期課程	3年間の場合：授業料等@426,670円×3年間＝1,280,010円 4年間の場合：授業料等@320,000円×4年間＝1,280,000円	※ ¹ 授業料等は、授業料と教育充実費が含まれています。
博士後期課程	4年間の場合：授業料等@480,000円×4年間＝1,920,000円 5年間の場合：授業料等@384,000円×5年間＝1,920,000円 6年間の場合：授業料等@320,000円×6年間＝1,920,000円	※ ² 在学中に申請することも可能ですが、入学時に申請した場合と納入総額が異なります。

◆◆◆ 平日夜間、土曜日開講

授業は、平日の夜間(18:00～19:30)や土曜日(8:50～19:30)を中心に開講しています。また、長期休業中に集中講義を開講するなど、働きながら学びたい方等にも配慮しています。

特待生制度

有為な人材を育成し、教育および研究の向上に資することを目的とした特待生制度が2022年度より設けられました。2年次生以上を対象とし、選考基準は学業成績、論文等発表、国内外の学会等での発表、受賞等、研究費獲得、人物評価等となっています。詳しくは、教育グループ 学生支援担当へお問合せください。

教育訓練給付金

「教育訓練給付制度(一般教育訓練給付)」により、一定の雇用保険の被保険者期間を満たす者に対し、教育訓練経費(入学金と初年度授業料)の20%(上限額10万円)が支給されます。詳しくは、教育グループ 教育支援担当へお問合せください。

「認定社会福祉士」研修科目の提供

社会福祉学専攻博士前期課程の開講科目において、認定社会福祉士認証・研修機構による民間認定の「認定社会福祉士」資格取得のための研修科目の一部を提供しています。

コースプロジェクト

大学院生が複数の専任教員を核とした研究チームに参画し、地域社会の関係組織や実務家と協働して実践的なテーマに取り組んでいます。2023年度は、以下のテーマで各プロジェクトを展開しています。

社会福祉学専攻

領 域	テーマ
最低生計費試算調査	「健康で文化的な最低限度の生活」を送るために必要な費用を各年代や世帯類型別に試算し、全国各地での同種調査と比較分析する。
地域包括支援	高齢者の問題を焦点化し、地域包括支援を支える保健医療、福祉組織・施設の運営、さらに、専門職チームのあり方について研究する。
多文化共生支援	外国籍住民が増加する中、地域社会での多文化コンフリクト状況を調査し、それに対応し得る生活支援のあり方について研究する。

発達支援学専攻

領 域	テーマ
地域子ども支援	上田市などの自治体や児童福祉施設と共働し、地域社会における子育て、子育て支援のあり方を焦点化した研究を行う。
障害児支援	幼少期から将来の地域での自立生活まで見通し、特別支援教育とリハビリテーション・UD活動の視点から支援のあり方を研究する。
心の健康の保持増進と精神疾患支援	現代社会における心理的ストレスや心の健康の問題に着目し、臨床心理学の知識と技術を用いることで、どのような支援が可能であるのかについて研究を進める。
児童生徒支援	学校教育や社会教育における児童生徒を対象に、学校現場や地域社会との連携・協働の下で、教育的課題の分析や解決を図る。

社会福祉学専攻 博士前期課程

取得できる学位 修士(社会福祉学) Master of Social Welfare

教育の基本方針

地域の福祉課題を発見・予測して解決・予防の方策を探り、政策形成につなげる実践研究を推進します。また、社会福祉の思想・理論・制度・政策・援助技術・研究や調査方法などの知識と技能に精通し、地域の福祉課題の解決を牽引・先導する高度専門職業人や研究・教育者の育成をめざします。

人材育成の目標

社会福祉の専門職や研究・教育職に求められる基本的な資質を基礎に、地域社会をベースに展開されるこれからの社会福祉支援を担い、多角的・多面的にコミュニティソーシャルワークを展開できる資質を有する各種の専門職従事者、およびそれを支える研究・教育者を育成します。

入学を期待する人材

- ▶ 大学の学部・学科等において社会福祉学またはその関連領域の学士の学位を有し、それぞれの知識や技術を体系的・系統的に深め、社会福祉にかかるより高次の専門的知識や技術の習得を志す者
- ▶ 社会福祉従事者または看護職・リハビリテーション職・教育職・保育職など社会福祉関連職務の経験者（実務経験3年以上）で、職務上の経験を踏まえ、社会福祉にかかるより高次の専門的知識や技術の習得、または専門的活動の高度化を志す者
- ▶ 社会福祉やその関連領域において研究・教育者になることをめざし、そのために必要な理解力・分析力・批判力・創造力の基礎を備え、目標の達成に向けて強い意欲を備えている者
- ▶ 自治体・社会福祉協議会・市民組織などの職員として、地域社会の福祉課題の解決に向けて貢献する強い意欲を備えている者

院生からのメッセージ



高梨 のぞみ さん（高齢者グループホーム管理者）

私は、高齢者グループホームの管理者として従事しております。尊い人生の先輩方とのかけがえのない出会いと、暮らしのお手伝いをさせていただく時間は貴重であり感謝しております。大学院への入学は、高齢者グループホームの運営について研究したいと考えたからです。私の上司が、働きながら大学院で学びを深めていました。その姿を見て、私も実践を積み、いつか大学院で学びたいと思い続けていたところ、長野大学大学院へ入学する機会をいただきました。研究熱心な先生方と院生の皆様とともに学び合える時間は、大学院ならではのスキルアップのチャンスです。研究・仕事・家庭の3つを成り立たせるため忙しい毎日を送っておりますが、職場や家族の協力によりこれまでにない充実感を得る日々です。これから、福祉の価値と魅力を若い世代に伝えること、地域の皆様・利用者の皆様・福祉職の皆様のお役に立つ研究をすること、という2つの目標に向かって実践と大学院での学びを進めていきたいと思います。

社会福祉学専攻博士前期課程の概要

	基盤部門	展開部門	プロジェクト部門	論文指導部門
1年次	- 社会福祉学原論特殊講義 - 社会福祉研究法特殊講義 - 社会福祉学特別演習Ⅰ（必修6単位）	- 社会福祉史特殊講義 - 福祉政策論特殊講義 - 社会福祉法制特殊講義 - ソーシャルワーク論特殊講義 - スーパービジョン論特殊講義 - 福祉マネジメント論特殊講義 - 地域福祉論特殊講義 - 地域包括ケア論特殊講義 - 地域子育て支援特殊講義 - 障害者地域支援特殊講義 - 保健・医療福祉論特殊講義 - 精神保健福祉論特殊講義 - 生活困窮者支援特殊講義 - 司法福祉論特殊講義 - 福祉社会学特殊講義 - 多文化共生論特殊講義 - 社会福祉調査法特殊講義	- コースプロジェクトA 最低生計費試算調査 - コースプロジェクトB 地域包括支援 - コースプロジェクトC 多文化共生支援	修士論文指導
2年次	- 社会福祉学特別演習Ⅲ（必修2単位） - 社会福祉学特別演習Ⅳ（必修2単位）			
	合計 必修14単位	合計 選択必修4単位	合計 選択必修4単位	必修8単位

❖ 教育カリキュラム

基盤部門：社会福祉学専攻の共通基盤となる科目群です。「社会福祉の総体を存立させている要件・制度・政策に関する体系的理論、援助（実践）技術の研究史と理論」、「研究方法と研究倫理」を学修します。また演習においては、講述形式に加え参与観察・実習等を織り交ぜて学修します。いずれも必修科目であり、計14単位の履修が必要です。

展開部門：基盤部門の科目を更に展開させた科目です。分野ごとの社会福祉各論、社会福祉調査法等の科目の中から、4単位以上を選択します。

プロジェクト部門：複数の専任教員を核とした共同研究チームに参画することにより、研究計画の策定・研究チームの運営・研究費の執行など、研究の推進に必要な知識と手法を学修します。選択必修科目（通年2単位、2年間で計4単位）です。

※詳細については、大学院ホームページの「社会福祉学専攻 博士前期課程の概要と履修モデル」を参照してください。

院生からのメッセージ

高橋 保行 さん（小布施町地域包括支援センター 社会福祉士）

社会福祉に興味を持ちながらも他の学科の大学へ進学した私には、福祉施設の数も少なかった時代背景もあり、大学卒業当時は今日の人材不足からは想像できないほど福祉施設への就職は狭き門でした。その後思いがけず高齢福祉の仕事に縁をいただき、そこから35年余りの月日が過ぎました。振り返ると、専門職として何の基礎もなかった私は働き始めてから資格を取得し研鑽を積んで来ましたが、この間理想とする福祉モデルには出会えませんでした。そして、その一方で自分自身がそれを実現できないまま試行錯誤の状態で歩んできてしまったように思い、大学院への進学を決意しました。大学院では多くの著名な先生方に教えを請い、熱意にあふれた仲間達に感化されながら研究に取り組んでいます。研究とは自らの立てた問いの答えを見つけ仮説の真偽を確かめる行為であり、大学院とはそういう作業を行う場です。新しい研究者（入学者）の独自の視点は、現下や未来の社会福祉の在り方にきっと大きな影響を与えるに違いありません。新たな志を掲げて一緒に学んでみませんか。



社会福祉学専攻 博士後期課程

取得できる学位 博士(社会福祉学) Doctor of Philosophy in Social Welfare

教育の基本方針

各自の実践や研究を科学的根拠（エビデンス）に基づく研究として理論化・科学化し、社会に発信する能力の習得と開発を目標とします。そのことを通じて、自らの実践や研究をソーシャルアクションや社会変革に結び付け、新たな学問的知見や政策を構想・提案できる人材の育成をめざします。

人材育成の目標

修士学位レベルの社会福祉や関連領域の知識を前提に、より高次の学問的・専門的資質を習得しようとする者を受け入れ、大学・短期大学・専門学校等の教育機関や研究機関における指導的研究・教育者、および高い自律性をもって活動する社会福祉やその関連領域の指導的・管理的専門職従事者を育成します。

入学を期待する人材

- ▶ 社会福祉に関連する修士の学位あるいはそれに匹敵する実践的経験を有し、社会福祉の実践にかかる高度の管理的専門職従事者となることを志す者
- ▶ 社会福祉に関連する修士の学位あるいは24歳以上で修士課程修了者と同等の学力を有し、将来社会福祉にかかる研究と実践の分野において先導的な役割を担う専門的研究・教育者を志す者
- ▶ 社会福祉従事者や関連領域の実践家（実務・活動経験10年以上）で、職業や活動の成果を総括し、実際の経験の理論化と体系化を志す者

院生からのメッセージ



三村 仁志 さん（公益社団法人 長野県社会福祉士会 事務局長）

私は、定年退職を機に大学院に進学をしました。そして、2023年に博士前期課程を修了し修士学位をいただきました。進学の動機は自らの実践の振り返りと課題を明らかにしたい、そして第二の専門職としての出発にあたり学び直し、スキルアップしたいというものでした。修士課程の調査において多くの実践者の皆様からご協力をいただき、現場の実態や実践者の想いに触れることができました。それは、自らの職業人生に重なり、共感する素晴らしい体験でありました。しかし現実、研究とは奥深いもので実践者としての「現場の概念」を研究における「分析的な概念」に置き換えることが非常に難しいことでありました。道半ばであることを実感し、博士後期課程へさらに進学することを志しました。これから新たな世界に進みます。多くの先生方からご指導いただき、院生の仲間と学ぶ時間はとても意義深い時間であります。自らの研究テーマを残された時間で「疑い」・「観察し」・「考え」ていきたいと思ひます。

社会福祉学専攻博士後期課程の概要

※修了要件：20単位以上

	基盤部門	展開部門	プロジェクト部門	論文指導部門
1年次	- 社会福祉援助総論特殊研究 - 社会福祉学特別演習Ⅰ※	- 福祉政策論特殊研究 - 社会福祉法制特殊研究 - ソーシャルワーク論特殊研究 - スーパービジョン論特殊研究 - 福祉マネジメント論特殊研究 - 地域福祉論特殊研究		
2年次	- 社会福祉学原論特殊研究 - 社会福祉学特別演習Ⅱ※	- 地域包括ケア論特殊研究 - 住環境福祉論特殊研究 - 地域子育て支援特殊研究 - 障害者地域支援特殊研究 - 保健・医療福祉論特殊研究 - 精神保健福祉論特殊研究 - 生活困窮者支援特殊研究 - 司法福祉論特殊研究 - 多文化共生論特殊研究 - 福祉社会学特殊研究 - 社会福祉調査法特殊研究	コースプロジェクトA 最低生計費試算調査	
3年次	- 社会福祉学特別演習Ⅲ※ - 社会福祉学特別演習Ⅳ※		- コースプロジェクトB 地域包括支援 - コースプロジェクトC 多文化共生支援	博士論文指導
	合計 ※は必修8単位	（選択科目）	（選択科目）	必修12単位

❖ 教育カリキュラム

基盤部門：社会福祉学の基盤を形成する科目群です。「社会福祉の総体を存立させている要件・制度・政策に関する体系的理論、援助（実践）の研究史と理論」、「社会福祉の援助（実践）、技術等に関する諸理論」、「研究と論文作成に関する理論と方法」について学修します。うち、指導教員から研究・論文作成方法を学ぶ「社会福祉学特別演習」の計8単位が必修です。

展開部門：領域別の専門科目であり、基盤部分の科目を更に展開させた科目です。分野ごとの社会福祉各論、社会福祉調査法等について学修します。すべて選択科目であり、自らの研究上の必要性和関心に即して、履修します。

プロジェクト部門：複数の専任教員を核とした共同研究チームに参画することにより、研究計画の立て方・研究チームの運営・研究費の執行など、研究の推進に必要な知識と手法を学修します。選択科目（通年2単位、3年間で計6単位）ですが、博士前期（修士）課程の院生に対するチューター的な役割と経験する場としても位置づけています。

※詳細については、大学院ホームページの「社会福祉学専攻 博士後期課程の概要と履修モデル」を参照してください。

院生からのメッセージ

野村 裕美 さん（大学教員）

私は現在、ソーシャルワーカーの養成教育に教員として携わっています。この度博士後期課程への進学を決意した理由は2つあります。1つ目は、ソーシャルワーカーに高い専門性が求められるようになり、養成教育での教授に資する博士論文を執筆したいと思ったためです。2つ目は、修士課程でお世話になった教授を始め、ぜひとも学びたいと思う教授陣が揃っていたためです。

研究テーマは「ソーシャルワーカーのコンピテンシー」についてです。授業は、文献精読にレジュメ作成と大変ですが、実践や教育に携わる社会人の方々、教授との討議は非常に充実したものであり、ソーシャルワーカーに必要なクリティカルシンキング力が向上していく手応えを感じています。



発達支援学専攻 修士課程

取得できる学位 修士(発達支援学) Master of Human Development Service

教育の基本方針

発達支援に関連した地域の福祉的課題、特に児童・家庭福祉や学校教育における心理社会的な課題を発見し、解決するための支援方法を探求する実証的な研究を推進します。また、地域における子どもの発達支援にかかる課題の解決を牽引・先導する高度専門職業人や研究・教育者の育成をめざします。

人材育成の目標

従来の子ども支援の専門職や研究・教育職に求められる基本的な資質を基礎に、福祉支援・心理支援・教育支援を統合化して展開されるこれからの子どもの発達支援の領域を担い、子どものライフキャリア支援の研究と実践を多角的・多面的に展開できる高度専門職従事者、およびそれを支える研究・教育者を育成します。

入学を期待する人材

- ▶ 大学の学部・学科等において社会福祉学・心理学・教育学・看護学・保健学等を専攻して、学士の学位を有し、それぞれの知識や技術を体系的・系統的に深め、発達支援という新しい領域の専門的職業人、または研究・教育者になることを志す者
- ▶ 社会福祉従事者または心理職・教育職・保育職など発達支援関連領域の職務経験者（実務経験3年以上）で、職務上の経験を踏まえ、発達支援にかかるより高次の専門的な知識や技術の習得、または専門的活動の高度化を志す者
- ▶ 発達支援やその関連領域において研究・教育者になることをめざし、そのために必要な理解力・分析力・批判力・創造力の基礎を備え、目標の達成に向けて強い意欲を備えている者
- ▶ 自治体・社会福祉協議会・市民組織などの職員として、地域社会の発達支援課題の解決に向けて貢献する強い意欲を備えている者

院生からのメッセージ



知久 朱美 さん（高校教員）

私は長野大学の社会福祉学部を卒業し、高校で教科「福祉」の教員をしています。長野大学は地域に密着した教育・研究が充実しており、学部での経験と感動は私の教育活動の原動力となっています。生徒や家庭・地域を取り巻く課題は、多様化・複雑化しています。生徒の教育的ニーズに応じた教科指導と支援や豊かな人間性の育成をめざし、高次の知識・技術・実践力を身につけ、さらに今までの教育実践を理論化し「専門性」を深めたいと考えようになりました。発達支援学専攻での学びは、想像以上に刺激的です。講義では「児童虐待」や「ヤングケアラー」等児童に関わる問題を題材に、多角的な視点から分析する力を養います。また、先生方の研究活動に参加して、専門的かつ実践的な知見を深める機会もあります。授業は土曜日や夜間が中心ですが、院生の状況に合わせ、日程や進度を柔軟に対応してください。仕事と学業の両立に不安を抱えている皆さんも、ぜひ新たな世界に飛び込んでみてください。

発達支援学専攻修士課程の概要

	基盤部門	展開部門	プロジェクト部門	論文指導部門
1 年 次	● 発達支援学原論特殊講義 ● 発達支援研究法特殊講義 ● 発達支援学特別演習Ⅰ（必修6単位） ● 発達支援学特別演習Ⅱ（必修2単位）	● 児童福祉原理特殊講義 ● 福祉政策論特殊講義 ● 福祉行政論特殊講義 ● 人間行動発達論特殊講義A ● 人間行動発達論特殊講義B ● スクールソーシャルワーク論特殊講義 ● 学校心理学特殊講義 ● 障害児心理学特殊講義 ● 医療心理学特殊講義 ● 学校カウンセリング演習 ● 発達支援アセスメント演習 ● 学校教育学特殊講義A ● 学校教育学特殊講義B ● 学校教育学特殊講義C ● 特別支援教育学特殊講義A ● 特別支援教育学特殊講義B ● 保健学特殊講義 ● 福祉支援工学特殊講義 ● 福祉野外活動論特殊講義	● コースプロジェクトA 地域子ども支援 ● コースプロジェクトB 障害児支援 ● コースプロジェクトC 心の健康の保持増進と精神疾患支援 ● コースプロジェクトD 児童生徒支援	● 修士論文指導
2 年 次	● 発達支援学特別演習Ⅲ（必修2単位） ● 発達支援学特別演習Ⅳ（必修2単位）			
	合計 必修12単位	合計 選択必修6単位	合計 選択必修4単位	必修8単位

❖ 教育カリキュラム

基盤部門：発達支援学専攻で学ぶ上での共通の基盤となる科目群です。発達支援の関連領域として、児童福祉・医療保健・心理学・および教育学の基礎的な理論と研究法を学び、発達支援の諸問題に対して多分野横断的な観点から考察を深めます。いずれも必修科目であり、計12単位の履修が必要です。

展開部門：基盤部門での学修を踏まえ、児童福祉・心理学・教育学・保健学・福祉工学のそれぞれの視点と枠組みに沿って、発達支援に関連したより専門的な知識を学び、実際的な問題への理解と考察を深めます。この部門の科目の中から6単位以上を選択します。

プロジェクト部門：複数の専任教員を核とした共同研究チームに参画することにより、研究計画の立て方・研究チームの運営・研究費の執行など、研究の推進に必要な知識と手法を学修します。選択必修科目（通年2単位、2年間で計4単位）です。

※詳細については、大学院ホームページの「発達支援学専攻 修士課程の概要と履修モデル」を参照してください。

院生からのメッセージ

三井 真由美 さん

子育てと介護を終えた後、興味のある分野を学び続ける中で何かカタチにしたいと思っていました。幸運なことに長野大学大学院に通える機会に恵まれ、多忙な日々を過ごしております。

発達支援学専攻は、教育学・福祉学・心理学をかけ橋にした「学際科学」が特徴です。次世代を担う子どもや若者のデジタル化・少子高齢化・コロナ禍など、諸問題の影響は日本の危機でもあると考えます。ここで立ち止まるのか、目をそむけるのか、向き合うのか。福祉に携わる者として学びを深めていくことが、私は必要とされていると考えています。また、働きながら学べる「長期履修学生制度」は、自分自身のテーマとじっくり向き合える学びやすい環境だと思います。



教員紹介

総合福祉学研究科 社会福祉学専攻

子ども虐待領域

博士前期課程担当 博士後期課程担当
(発達支援学専攻兼任)

井上 景 准教授

中核市等の基礎自治体が設置する児童相談所に関する研究／子ども虐待の発生予防の取り組みに関する研究

地域包括ケア領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

太田 貞司 教授

地域包括ケアシステム研究／東アジアにおけるケアワーカー形成研究／介護職場の中核の人材開発研究

障害福祉／精神保健福祉領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

片山 優美子 教授* 博士後期課程においては完成年度まで准教授

障害者・精神障害者支援：就職・定着支援／ダイアログ／元氣回復行動プラン／実習評価／ストレングスモデルのケアマネジメント／ヤングケアラーに関するまちづくりの研究

ソーシャルワーク領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

黒木 保博 教授

グループを活用したソーシャルワーク研究／社会福祉専門職養成教育のあり方研究／国際社会福祉研究

司法福祉領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

小長井 賀與 教授

刑事司法と福祉の連携／更生保護／社会的孤立者・逸脱者の社会的包摂と社会参加／多文化共生／地域社会の安全・安心／修復的司法に関する研究

福祉社会学領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

三本松 政之 教授・社会福祉学専攻長

外国籍移住者などのマイノリティをめぐる社会的排除とその包摂に関する研究／社会的パルネラブルクラスにみるコミュニティを基盤とした相互支援に関する研究

精神保健福祉領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当

塩津 博康 准教授

就労系障害福祉サービス及び関連施策を対象としたプログラム評価研究／精神保健福祉の専門職養成教育を応用したコミュニティ教育についての実装研究

福祉支援工学領域

博士後期課程担当▲ (発達支援学専攻兼任)

繁成 剛 教授

福祉支援工学における福祉用具の開発と適合および供給システムに関する研究／障害者・高齢者に対する姿勢保持研究

貧困・低所得者福祉領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

鈴木 忠義 教授

貧困・生活困窮者の生活と社会福祉制度・政策に関する研究

医療福祉領域

博士前期課程担当▲

鈴木 由美子 准教授

保健医療福祉・医療ソーシャルワークに関する研究／社会福祉実習教育に関する研究

障害福祉領域

博士前期課程担当 博士後期課程担当
(発達支援学専攻兼任)

相馬 大祐 准教授

障害者の生活の場に関する研究／障害児者の相談支援に関する研究

高齢者福祉領域

博士前期課程担当▲

羅 珉京 准教授

外国人介護人材の職場定着の構造に関する研究／社会福祉施設における経営理念浸透と人材育成・定着に関する研究

福祉マネジメント領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当●

中村 英三 教授・研究科長

社会福祉施設経営論／小河滋次郎研究－民生委員制度誕生と現代的課題／EPA(経済連携協定)に関連した外国人介護労働者の日本語教育政策に関する研究

地域福祉領域

博士前期課程担当●

新田 さやか 准教授

日本と韓国におけるハンセン病回復者を包摂する社会基盤形成に関する研究／結婚移住女性のエンパワメントに関する研究

医療技術論／医療史領域

博士前期課程担当●

藤井 博之 教授

多職種連携で使われるキーワードの基礎的研究／対人援助職の専門性に関する技術論的研究／地域包括ケア構築過程の研究／福祉用具の活用・普及システムに関する研究

社会福祉原論領域

博士後期課程担当● (発達支援学専攻兼任)

古川 孝順 教授

社会福祉の存立構造並びに歴史的展開過程についての理論的研究

福祉政策領域

博士前期課程担当● 博士後期課程担当▲

矢野 亮 教授* 博士後期課程においては完成年度まで准教授

生存保障システムの形成と変容に関する研究／限界集落の福祉政策に関する研究／貧困と地域に関する政策史研究

総合福祉学研究科 発達支援学専攻

学校教育領域

修士課程担当▲

飯塚 秀彦 准教授

教科等における外部人材等との連携・協働に関する研究／公民科教育に関する研究／道徳教育に関する研究

子ども虐待領域

修士課程担当▲ (社会福祉学専攻兼任)

井上 景 准教授

一時保護所における子ども支援とケアに関する研究／わが国の子ども虐待基礎理論に関する研究

社会心理学領域

修士課程担当●

遠藤 忠 准教授・発達支援学専攻長

偏見低減要因の解明／偏見低減効果測定技法の開発／高齢者介護における自律性支援のあり方に関する研究

教育臨床領域

修士課程担当●

片岡 通有 教授

カリキュラム・マネジメントに関する研究／“はじめに子どもありき”の教育課程に関する研究／教育における臨床の知の実践研究

臨床心理学領域

修士課程担当▲

亀倉 大地 助教

自己愛傾向と対人関係に関する研究／自己愛傾向と怒りの関連

犯罪心理学領域

修士課程担当▲

小林 万洋 教授

非行・犯罪行動の心理学的理解と支援／矯正施設被収容者の再犯リスク管理とそのウェルビーイングの保障／グリーンケアの可能性：自然と福祉をつなぐ発達の支援の理論と実践

臨床心理学領域

修士課程担当●

佐藤 修哉 准教授

心の健康に関する啓発活動の予防的効果の研究／Compassion Focused Therapyの効果に関する研究／援助要請の促進に関する研究

福祉支援工学領域

修士課程担当● (社会福祉学専攻兼任)

繁成 剛 教授

運動および知的な発達に障害のある児童に対する姿勢・移動・コミュニケーションに関する支援技術の研究／子どもの発達を促す遊具のデザイン

障害福祉領域

修士課程担当● (社会福祉学専攻兼任)

相馬 大祐 准教授

障害者の生活の場に関する研究／障害児者の相談支援に関する研究

特別支援教育領域

修士課程担当●

丹野 傑史 教授

障害児者の自立に向けた指導・支援(自立活動)／授業のユニバーサルデザイン／障害当事者・家族への意思表明・就労継続支援

教育方法／社会教育領域

修士課程担当●

早坂 淳 教授

地域と学校の協働による学校教育の展開／学校運営協議会制度(コミュニティ・スクール)／地域学校協働活動／教育のユニバーサルデザインと授業作り／子どもの居場所づくり

児童福祉原論領域

修士課程担当● (社会福祉学専攻兼任)

古川 孝順 教授

児童福祉とは何か、歴史的・学際的に解明することをめざす研究

※大学院の各課程に所属する教員の氏名と研究領域・テーマです。

各教員が担当する課程名の後に記載してある●印は、その教員が論文指導の主要指導教員または副指導教員の担当、▲印は副指導教員の担当を示します。

※各教員の大学院での担当科目は、大学ホームページ上のシラバスで検索できます。

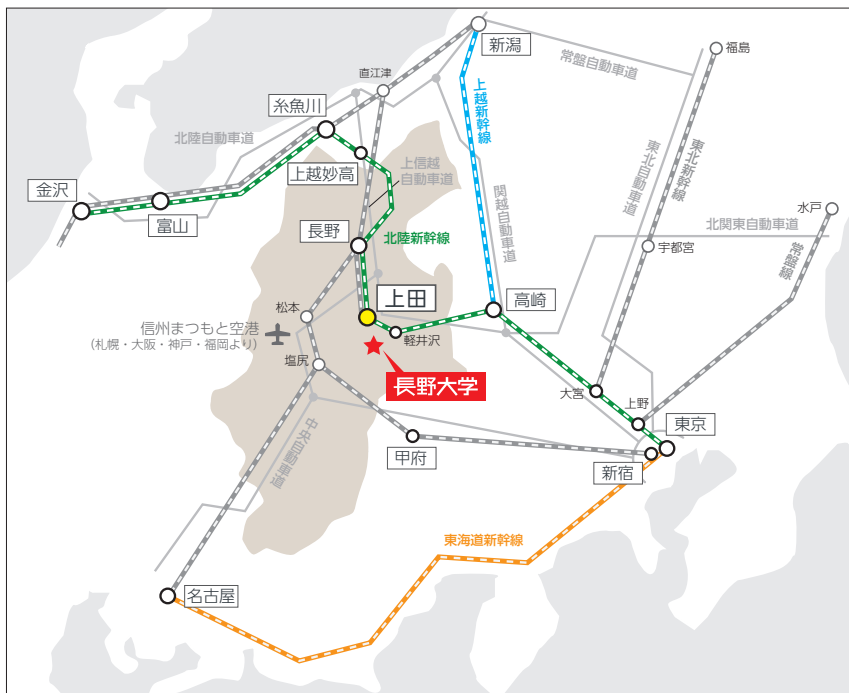
※退職等による教員の異動があります。受験上必要な場合は、教育グループ 広報入試担当(tel:0268-39-0020、kouhou@nagano.ac.jp)にご連絡ください。



担当科目等、教員についての詳細はこちらをご覧ください



■ アクセスマップ



高崎	35分		上田	上田電鉄 別所線 14分	大学前 徒歩 10分	長野大学	
上越妙高	35分						
富山	1時間 20分						
東京	1時間 30分						
新潟	1時間 15分	高崎					35分
名古屋	1時間 40分	東京					1時間 30分

北陸新幹線

上越新幹線

東海道新幹線

公立大学法人

長野大学

〒386-1298 長野県上田市下之郷658-1
 ホームページ www.nagano.ac.jp
 [教育グループ 広報入試担当] Tel 0268-39-0020

詳細は大学院
ホームページを
ご覧ください。

